

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32202

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02865

研究課題名（和文）医学教育分野別評価の観点に準じた教学IR指標の検討：LRSによる学習履歴の統合

研究課題名（英文）Study of educational IR indicators based on the perspective of evaluation by medical education : possibility of using learning records

研究代表者

浅田 義和 (ASADA, Yoshikazu)

自治医科大学・医学部・准教授

研究者番号：10582588

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：Moodle（LMS）上の機能を利用した教育実践において、どのような教育データが収集され、その結果を教学IRの観点からどのように活用可能かを整理した。特にデータベースモジュールを利用した教育実践においては、学生の実習記録の収集・整理や形成的評価の活用、さらには電子シラバス等への活用も可能であることが示唆され、これらのデータを活用することで教学IRおよび学習分析の観点から有用であることが検討された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学生の実習履歴を用いた形成的評価や教育の質に関する調査、さらには電子シラバスと医学教育モデル・コア・カリキュラムとを紐付けた調査など、医療系の教育に特化した教学IR活動において、従来とは異なる指標の抽出や活用が可能となった。また、Moodleのプラグインを活用したデータ集計を行うことで、教員のみならず学生にも情報を提示し、学習分析・形成的評価としての活用が可能であることも示された。

研究成果の概要（英文）：Educational practices using the Moodle (LMS) features have organised what kind of educational data is collected and how the results can be used from the perspective of teaching and learning IR. In particular, it was suggested that educational practices using the database module can be used to collect and organise students' practical training records, to use formative evaluation and to use the results in electronic syllabi, etc., and that the use of these data can be useful from the point of view of IR for teaching and learning analysis.

研究分野：医学教育

キーワード：医学教育 教学IR Moodle 分野別評価

1. 研究開始当初の背景

日本の医学教育では、医学教育分野別評価(以下、分野別評価)を契機として IR(Institutional Research)、特に教育に関する教学 IR の注目が集まっている。分野別評価は WFME(World Federation For Medical Education)によるグローバルスタンダードの日本語版に基づいて行われ、国際的な基準に合致した医学教育の実現を目的としている。グローバルスタンダードの「7. プログラム評価」では以下のような記述があり、体系的な教育の評価・改善を目的とした教学 IR の必要性がうたわれている(以上、医学教育分野別評価基準日本語版 Ver 2.2 より引用)。

- ・ 医学部は、カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを設けなければならない。
- ・ [プログラムのモニタ]とは、カリキュラムの重要な側面について、データを定期的に集めることを意味する。(後略)
- ・ [プログラム評価]とは、(中略)教育プログラムの質や、大学の使命、カリキュラム、教育の学修成果など中心的な部分を明らかにする目的がある。

医学教育における教学 IR を実践するにあたり、教育全体の評価・改善という目的を見据え、その目的に合致したデータ収集や指標の作成を進めることが求められているといえる。言い換えれば、「グローバルスタンダードに基づく医学教育の質保証および改善という観点から、医学部での教学 IR を遂行するにはどのようなデータ・指標が必要か」という問いを考えることが必要であった。

2. 研究の目的

本研究の主たる目的は「医学部における教学 IR で利用可能なデータ・指標を検討し整理すること」である。この目的を元に、以下の小目的を設定した。

- LRS (Learning Record Store) を念頭においた学習履歴管理の環境整備
 - 学習履歴：出席情報や成績のほか、LMS (Learning Management System) 上での学習状況なども含め、形成的・総括的評価に関する情報全体を指すものとする。
- IR 指標の検討
 - LRS 上のデータ活用
 - 教学 IR 事例の収集と整理

3. 研究の方法

(1) LRS (Learning Record Store) を念頭においた学習履歴管理の環境整備

LRS として教学情報を集約させるための環境を整備し、教育の情報を一元管理することで解析を行いやすくするための準備を検討した。具体的には、Moodle と同様にオープンソースで帝京される LRS である Learning Locker を用意し、LMS の情報を主体とした教育情報を集約することを試みた。また、これに付随して、Moodle をどのような形式で利用し、それによってどのようなデータが抽出可能になっているか、という点の整理も行った。

(2) IR 指標の検討

(1) の検討を元に、集約された情報を整理し、教学 IR に用いる指標の抽出を試みた。

(3) 研究体制

研究の組織体制は研究代表者に加えて研究分担者 1 名を加えた 2 名体制とした。研究分担者は主として他機関の IR に関連する事例・情報収集を担当した。

4. 研究成果

(1) LRS (Learning Record Store) を念頭においた学習履歴管理の環境整備

(1-1) LRS の検討

研究の初年度では、Learning Locker のサーバ構築を行い、Moodle からのデータを抽出・補完することを検討した。Learning Locker はオープンソースの LRS として提供されており、インストールの手順についてもマニュアル化された情報が公開されている。このため、サーバ構築の知識・経験がある者であればインストールして運用することは可能であった。

一方、Moodle との連携を考慮するにあたって、大きな課題が明らかとなった。Moodle から Learning Locker へデータを保存するためには、xAPI (Experience API) の形式でデータを受け渡

す必要がある。xAPI そのものについては JSON 形式による規格なども検討されているが、Moodle から直接 xAPI でデータを出力する機能は存在しておらず、プラグイン等を利用することとなる。本研究ではプラグインの開発に時間を割いてしまうことは得策ではないと判断し、既存のプラグインを利用することとした。この場合、使用可能なプラグインとしては Logstore xAPI が存在していた。これは Moodle の基本的なログ情報である logstore の情報を xAPI に変換するものであり、実際に Learning Locker へと情報を取り込むことが可能となった。しかし、この場合、logstore で出力される情報の種類に準じたデータしか収集することはできず、十分なデータが扱えないという課題が生じた。

具体的には、Moodle 上の小テストやアンケート等を用いて学生の自己評価用チェックリストを作成していた場合、logstore から確認できるのは「誰が」「いつ」「どのチェックリストを利用したか」という結果のみである。実際はこれに加えて、「どのようなチェックリストの埋まり方をしてきたか」が重要となる。例えば 10 項目中、ある特定の項目について大半の学生がチェックされない状態であったとすれば、その点を達成できるようなカリキュラムの改善を検討する必要が考えられる。しかし、前述のデータではこの判断の材料が不足してしまうこととなる。

結果として、教育プログラムの評価・改善を行うためのログデータとしては、通常の logstore データでは不十分であり、追加のプラグイン開発を行う、あるいは他の手段を検討することが不可欠であった。前述のように、プラグインの開発という点に注力することは本研究課題のもととの位置づけとしても不相当である。そこで、LMS である Moodle のデータを効率的に活用できるようにし、仮想的な LRS として利用していく計画に切り替えることとした。

(1-2) Moodle の活用方法に関する検討

Moodle は MySQL 等のデータベース上にデータが集約されており、この中には学習者の利用ログがすべて蓄積されていることとなる。このため、適切な SQL を作成し、Moodle のデータベースから直接データを抽出することができれば、少なくとも Moodle 上にあるデータは LRS を利用している場合と同等に活用が可能となる。一方、データベースに直接アクセスして SQL を利用することは、少なからずデータの破損などの危険性をともなうことになる。そこで本研究では、Moodle のプラグインとして開発されている Configurable Reports および LearnerScript の利用を検討した。いずれも Moodle 上から SQL を実行し、その結果を抽出可能なプラグインである。両プラグインの特徴は表に示すとおりである。

特徴	Configurable Reports	LearnerScript
価格	無料	有料 (買い切り)
SQL の利用	可能	可能
利用者の制限	可能	可能
グラフの作成	一部のみ可能	可能
ダッシュボード作成	不可能	可能
スマホ等での利用	ブラウザのみ可能	可能
動作	軽い	やや重い

両プラグインとも、直接ユーザがデータベースにアクセスする場合と異なり、データベースの編集を扱う SQL が SELECT 文のみとなっているなど制限がついている。このため、より安全な形でデータを処理することが可能となる。なお、この場合であっても本稼働しているデータベースを直接扱うことはリスクがある。そのため、より安全な環境とするため、本稼働しているデータベースの日時バックアップを更に複製し、データの確認にはこの Moodle データベースを利用することとした。プラグインの利用にあたっては、SQL の実行自体については差がないため、Configurable Reports を基本として SQL の作成検討を行い、必要に応じて LearnerScript で可視化を支援することとした。

一方、LRS の特徴として、Moodle に限らず多様なシステムからデータを収集・整理できるという点もある。Moodle を単体で扱う場合、この点是对応が困難な点となってしまう。しかし、Moodle の標準機能であるデータベースモジュール (以下 DB) を利用することで、擬似的な対応は不可能ではない。具体的には、インポートしたいデータを CSV 形式で作成したうえで、そのデータ形式と合致したフィールドをもつ DB を準備することとする。これにより、データを Moodle で扱えるようにインポートすることが可能となる。当然ながら、差分データを処理することができない等の課題も多く残されるため、この機能のみで LRS の代替とすることはすべきではない。場合によっては、Moodle データと他のデータをそれぞれ別保存しておき、Business Intelligence ツールや ETL (Extract, Transform, Load) などを利用して解析することも考慮する必要がある。

(1-3) Moodle 自体の活用方法

Moodle 自体は様々な機能を有している。この中で、教学 IR としての活用を考えるにあたり、どのようなデータが利用可能かを整理することが必要である。さらには、どのような教育利用が想定されるかも考慮しておくことが求められる。ここでは一部のみ留めるが、例として以下のような内容が整理された。なお、この中の一部は教学 IR のみならず学習分析の観点としても利

用可能なものとなっていた。

扱う機能	教育での活用	扱うデータ
小テスト	教材ごとの定着度確認	受験回数、初回・最大の得点
小テスト	用いた設問の質確認	受講者全体での得点率等
小テスト	問題の質確認	問題別の利用回数
課題	ループリックでの学生評価	ループリックの個別採点結果
課題	ループリック自体の見直し	ループリックの個別採点結果
データベース	実習記録（簡易ログブック）	各フィールドの結果そのもの
データベース	電子シラバス	各フィールドの結果と個別のコース
全体	自己学習での利用度調査	Moodle 自体のアクセス数
PDF・動画資料	閲覧用の資料提示	表示・再生回数

(2) IR 指標の検討

(2-1) IR に利用可能な SQL の検討

Moodle のデータベースから、IR の指標として検討可能なデータを抽出するための SQL を検討した。(1-3)と同様、ここでは一部のみとして留めるが、内容の例を以下に示す。

扱うデータ	IR の観点での活用
受験回数、初回・最大の得点	学習者の自己学習調査
受講者全体での得点率等	学修の定着率調査、教材の質調査
問題別の利用回数	作成者別の評価、教材の質評価
ループリックの個別採点結果	形成的評価への利用状況確認
ループリックの個別採点結果	評価基準（評価そのもの）の評価
実習記録（ログブック）データ	臨床実習の記録などの集計
電子シラバスデータ	コアカリ導入状況の調査など
Moodle 自体のアクセス数	LMS 導入の費用対効果
表示・再生回数	教材置き場としての費用対効果

本データについては、一部は学生が自身の省察にも利用可能なものとなっている。Moodle でプラグインを利用した場合、元の SQL は操作せず結果のみを表示させ、かつ、利用者自身のデータのみをフィルタしてデータを抽出することも可能となる。これにより、特に LearnerScript の場合は BI ツールと同じようにダッシュボードを作成することも検討することができた。

(3) 研究結果に対する考察

IR の指標として、LMS の導入に関する費用対効果などは「大学 IR スタンダード指標集」などでも示されているものである。一方、特に DB を利用することで Moodle 上でも集積可能な情報、すなわち学生の実習記録などについては、医療系であるが故に特に必要となるものとも言える。教育学部等の教員実習にも類似すると考えられるが、日々の学習履歴を記録し、その形成的評価がどのように行われたのか、あるいは行われていなかったのか、量的なデータとして観測することができる点では意義がある。また、電子シラバスのデータから医学教育モデル・コア・カリキュラム等の対応状況を紐付けて集計することも、医学部や歯学部・薬学部等、コアカリキュラムが策定されている領域だからこそ特に意味があるものになるとも考えられる。

国内で実施される医学教育分野別評価は 2 巡目の評価に入っており、特に領域 7（プログラム評価）では部分的適合という結果が相次いで評価されている。このような状況に対しても、より客観的なデータを収集・解析し、教育改善に利用するような流れを作ることが求められているといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 Asada Yoshikazu, Saeki Yagi Machiko	4. 巻 1
2. 論文標題 Changes of Moodle Usage Trends by Academic Year in a Medical School during the COVID-19 Pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IIAI Letters on Institutional Research	6. 最初と最後の頁 1~1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.52731/lir.v001.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 浅田 義和	4. 巻 88
2. 論文標題 コロナ禍におけるLearning Management Systemの活用	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精密工学会誌	6. 最初と最後の頁 14~17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2493/jjspe.88.14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Asada Yoshikazu, Okazaki Hitoaki, Sata Naohiro, Kawahira Hiroshi, Yamamoto Shinichi, Matsuyama Yasushi	4. 巻 5
2. 論文標題 A Moodle-Based E-Syllabus with Database Activity Module	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Institutional Research and Management	6. 最初と最後の頁 30~44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.52731/ijirm.v5.i1.598	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Yoshikazu Asada	4. 巻 4
2. 論文標題 Investigation of the current situation of medical education in Japan based on the results of accreditation based on global standards	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Institutional Research and Management	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/IIAI-AAI.2019.00075	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松山 泰,岡崎 仁昭,浅田 義和,栗原 博之,上田 茂,伴 信太郎,河北 博文,門田 守人	4. 巻 51
2. 論文標題 医学生臨床実習, Pre-, Post-CC OSCEの代替コンテンツ-河北班からの提案-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 216-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_216	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅田 義和,遠藤 仁司,菊地 元史,野田 泰子,石川 鎮清,松山 泰,岡崎 仁昭,松村 正巳	4. 巻 51
2. 論文標題 47都道府県と自治医科大学とをつなぐ遠隔教育のためのMoodle環境構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 236-237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_236	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村 好一,板井 美浩,牧野 伸子,佐藤 正章,長嶋 茂雄,石川 由紀子,黒岩 憲二,笹原 鉄平,野田 泰子,松村 正巳,石川 鎮清,小川 真規,山邊 昭則,浅田 義和	4. 巻 51
2. 論文標題 自治医科大学における学生寮教育と今回の新型コロナウイルス感染症対策 : 全寮制下での対応と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 306-307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_306	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikazu Asada,Machiko Saeki Yagi	4. 巻 4
2. 論文標題 Moodle for Learning Analytics and Institutional Research: Exporting Data via SQLs and Plugins	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Institutional Research and Management	6. 最初と最後の頁 30-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.52731/ijirm.v4.i2.587	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅田 義和	4. 巻 4
2. 論文標題 学習分析の観点からみたオンライン授業実践ツールの特徴およびMoodleを用いた学習分析の可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学習分析学	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.51034/jasla.4.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikazu Asada	4. 巻 3
2. 論文標題 The Trend of Institutional Research in Japanese Medical Education: A Case Study from Jichi Medical University	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Institutional Research and Management	6. 最初と最後の頁 1 - 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.52731/ijirm.v3.i2.455	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計35件(うち招待講演 5件/うち国際学会 11件)

1. 発表者名 浅田義和
2. 発表標題 IRを実施するにあたって注意すべきデータの持ち方・扱い方
3. 学会等名 第54回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akinori Yamabe, Rio Otsuka, Chiaki Mishima, Yoshikazu Asada
2. 発表標題 Teaching 'Responsible Conduct of Research' during the COVID-19 pandemic: Assessment of online learning
3. 学会等名 STARS Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅田義和, 八木街子
2. 発表標題 コロナ禍におけるMoodle利用状況の変遷：医学部における事例
3. 学会等名 日本教育工学会 2022年春季全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshikazu ASADA
2. 発表標題 Learning Analytics and Institutional Research with LMS under the COVID-19 Pandemic in Japan
3. 学会等名 APMEC 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅田義和, 八木街子
2. 発表標題 オンライン授業の形態と、Moodleの活用状況との比較：自治医科大学での事例
3. 学会等名 第10回 大学情報・機関調査研究集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅田義和, 八木街子
2. 発表標題 COVID-19 前後でのMoodle活用比較:自治医科大学医学部の事例
3. 学会等名 日本教育工学会2021年秋季全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshikazu Asada, Hitoaki Okazaki, Naohiro Sata, Hiroshi Kawahira, Shinichi Yamamoto, Yasushi Matsuyama
2. 発表標題 A case report on Moodle-based distance education for COVID-19
3. 学会等名 AMEE 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅田義和, 松山泰, 松村正巳, 岡崎仁昭
2. 発表標題 COVID-19対応としてのMoodleを用いた教育支援の報告
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅田義和
2. 発表標題 医学教育分野別評価の評価報告書からみる領域・水準別の評価傾向：2021年3月版データによる解析
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅田義和
2. 発表標題 今後のIRを見据えて：IRにおけるデータ収集・解析と日常の教育との連携
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshikazu ASADA, Hitoaki OKAZAKI, Naohiro SATA, Hiroshi KAWAHIRA, Shinichi YAMAMOTO, Yasushi MATSUYAMA
2. 発表標題 The learning analytics and institutional research based on the usage of Moodle after COVID-19 pandemic
3. 学会等名 10th International Congress on Advanced Applied Informatics (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akinori Yamabe, Yoshikazu Asada, Shio Kawagoe
2. 発表標題 The SDGs and gender equality at medical universities in Japan : Student support system for medical students based on institutional research
3. 学会等名 2021 International Conference of STARS; Students, Transitions, Achievement, Retention and Success (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 恒川幸司, 中村真理子, 岡田聡志, 浅田義和, 菰田孝行, 椎橋実智男
2. 発表標題 真に医学教育改革に資するIRとは? ~ 第2回医療系IR友の会ミーティング
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木義彦, 前田佳孝, 宮道亮輔, 浅田義和, 川平洋, 松村正巳
2. 発表標題 集合研修の代替として急遽企画実施したMoodle版シミュレーション実習の満足度と有用性の検討
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浅田義和, 岡崎仁昭, 佐田尚宏, 川平洋, 山本真一, 松山泰
2. 発表標題 新医師臨床研修制度に準拠したMoodleベースの臨床教育評価システム検討
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浅田義和, 八木街子
2. 発表標題 Moodle等のLearning Management Systemによって収集可能な情報と学習分析・教学IRへの活用の可能性
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木真紀, 松山泰, 浅田義和, 三重野牧子, 川平洋, 武藤弘行, 石川鎮清, 岡崎仁昭
2. 発表標題 自治医大マルチメディア形式総合判定試験の11年の解析－医療面接・臨床推論連問の導入
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八木街子, 鈴木美津枝, 都竹茂樹, 村上礼子, 浅田義和, 中野裕司
2. 発表標題 看護職の遠隔学習における学習成果と自己調整学習方略
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浅田義和,河北博文,伴信太郎,岡崎仁昭,川平洋,松山泰,門田守人
2. 発表標題 Moodle を用いた臨床実習代替教材の提案
3. 学会等名 教育システム情報学会 第45回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浅田義和,岡崎仁昭,佐田尚宏,川平洋,山本真一,松山泰
2. 発表標題 Moodle を用いた医学教育の遠隔授業運用に関する実践報告
3. 学会等名 日本教育工学会 2020 年秋季全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshikazu ASADA, Hitoaki OKAZAKI, Naohiro SATA, Hiroshi KAWAHIRA, Shinichi YAMAMOTO, Yasushi MATSUYAMA
2. 発表標題 A Moodle-Based E-Syllabus for Institutional Research for Curriculum Mapping and Competency Assessments
3. 学会等名 2020 9th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浅田義和
2. 発表標題 シミュレーションとICT活用教育-日本シミュレーション医療教育学会の立場から-
3. 学会等名 第16回日本医学シミュレーション学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅田 義和
2. 発表標題 Moodleことはじめ：学習者としてのコース体験
3. 学会等名 MoodleMoot Japan 2021 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅田 義和
2. 発表標題 コロナ禍前後における自治医科大学Moodle活用状況の変遷と今後の展望
3. 学会等名 MoodleMoot Japan 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅田 義和
2. 発表標題 新しい教育へのチャレンジ コロナ時代の教育-With コロナで見えてきたオンライン教育の特徴と課題-
3. 学会等名 第13回 日本医療教授システム学会総会 学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshikazu Asada
2. 発表標題 Investigation of the Current Situation of Medical Education in Japan Based on the Results of Accreditation Based on Global Standards
3. 学会等名 IIAI-AAI 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅田 義和
2. 発表標題 医学教育分野別評価における評価報告書内容にみる特徴分析
3. 学会等名 第8回MJIR研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅田 義和
2. 発表標題 Moodleを用いての学習分析・教学IR事例：医学部と大学附属病院との比較検討
3. 学会等名 学習分析学会（JASLA）2019年度 第2回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅田義和
2. 発表標題 医学教育分野別評価の評価報告書からみる国内における領域・水準別の評価傾向
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akinori Yamabe, Yoshikazu Asada, Kazuya Atsumi
2. 発表標題 Enrollment management system for medical students based on institutional research
3. 学会等名 STARS (Students, Transitions, Achievement, Retention and Success) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshikazu Asada, S. Machiko Yagi
2. 発表標題 The use of Moodle in medical education: Literature review
3. 学会等名 AMEE 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshikazu Asada
2. 発表標題 Trends of Institutional Research in Japanese Medical Education: A case study of Jichi Medical University
3. 学会等名 2018 7th International Congress on Advanced Applied Informatics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅田 義和, 前田 佳孝, 鈴木 義彦, 川平 洋
2. 発表標題 シミュレーションセンターにおける予約管理システムの設計および運用報告
3. 学会等名 第6回日本シミュレーション医療教育学会 学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshikazu Asada, Makiko Mieno, Hiroyuki Mutoh, Toshiro Hamamoto
2. 発表標題 The current usage of moodle and the future task at jichi medical university
3. 学会等名 16th Asia Pacific Medical Education Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅田 義和
2. 発表標題 Learning Management System (LMS) ではどこまで、何のために学習を管理するべきなのか
3. 学会等名 第11回日本医療教授システム学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Github https://github.com/yasada0819/mdl_ConfigurableReportShare

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山邊 昭則 (Yamabe Akinori) (70533933)	自治医科大学・医学部・准教授 (32202)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------